

磯根漁場の包括的管理による生産性向上研究

(予算区分 県単 研究期間 平成29~31年度)

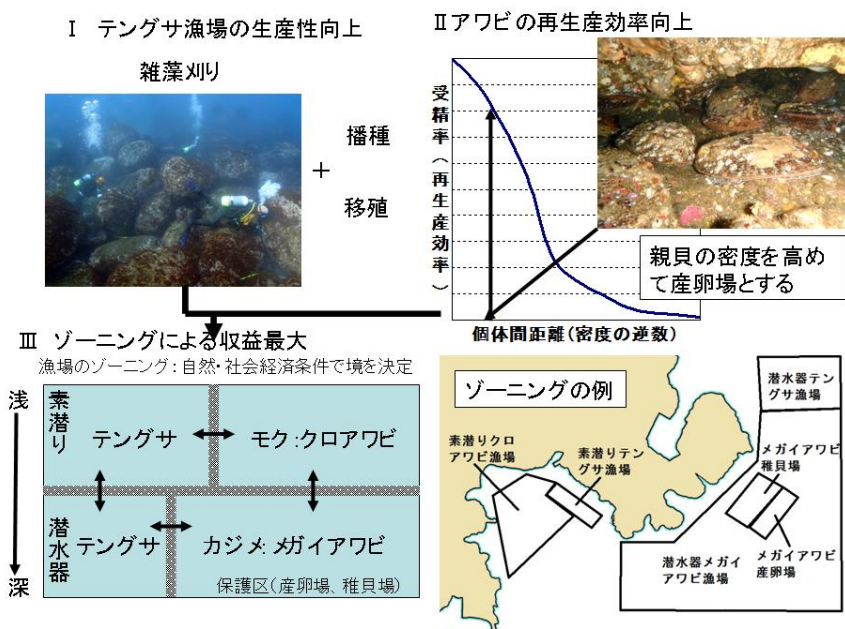
担当：水産技術研究所伊豆分場 長谷川雅俊

【研究の背景とねらい】

伊豆地域ではイセエビやアワビ、サザエ等の貝類、テングサなどの磯根資源を対象とした磯根漁業が長年継続されてきましたが、漁獲量や漁業従事者の減少、磯焼け、テングサ漁場の荒廃などの自然環境の変化に伴い、地区内で確立されてきた伝統的な漁業と漁場利用が急速に崩れつつあり、新しい磯根漁業の構築が求められています。

本研究では、新しい磯根漁業の構築に向け、荒廃したテングサ漁場の回復手段として雑藻刈りを改良すること、アワビ資源の再生産効率を高める手法を確立すること、テングサ・アワビ漁場の配置と利用方法を検討することにより、漁場の生産性を高める方法の確立、その漁場の適正配置による包括的な地先海面の生産性の向上を目標とします。

図 研究のスキーム



【期待される効果】

- ・ 地区としての磯根漁業ビジネスモデルが提案でき、磯根漁業の存続とともに若者の漁業への就労促進や磯根漁業生産物の安定供給が見込まれます。
- ・ 磯根漁業の再生により、漁業生産額の増加とともに伊豆地域の活性化が期待されます。

【年次計画】

小課題名	研究年度			研究内容
	29	30	31	
1. テングサ漁場の生産性向上	○	○	○	雑藻刈りと播種等を併用した荒廃テングサ漁場の回復速度を速める手法を確立します。
2. アワビの再生産効率向上	○	○	○	天然漁場で親貝密度を実験的に高めて、稚貝発生量を高める技術を試行します。
3. 漁場のゾーニングの試行	○	○	○	モデル地区の操業実態を明らかにし、テングサ・アワビ漁場の配置と利用を検討します。

(作成 平成29年4月)